

どうする？自治会

前号まとめ「自治会が抱える課題」 高齢化 価値観の多様化 住民間の壁

前号では、「自治会の抱える現在とこれからの課題」を浮き彫りにしました。
今号では、自治会に入る意義とメリットについて考えていきます。

取手市内の規模の異なる二つの自治会取材しました

戸頭町会：加入世帯 約1200世帯

「地域お助け隊」「地区パトロール」「定期イベント」など多彩な活動を展開。役員80歳定年制を導入し、持続可能な自治会として未来を見据えた取り組みにも力を入れている。

つつじが丘自治会：加入世帯 約135世帯

2022年に自治会の防災活動を独立させ、防災専任の新体制を開始。「無事ですタオル」を配布しての安全確認、非常時に備えてサポート体制を整えるなど災害を想定した取り組みを行っている。

無理せず、できること、興味のあることから参加
戸頭町会長 古舘貴弘さん

— 50代で仕事をしながら会長になった経緯は？

これまで役員を歴任した実績を買われて推薦を受けました。役員を務めるようになったのは、子どもの野球チームを通じてコミュニティ活動を始めたのがきっかけです。

— 住み始めた頃と比べて町会の変化を感じますか？

高齢単身世帯、共働き世帯が増えました。それに伴い、班長ができないという理由で退会する人も出ています。

— 何か対策は？

高齢等の理由で班長ができない場合は役を免除する体制を構築していく予定です。また、役員に80歳定年制を導入し、若い世代を増やしました。共働きでも積極的に参加している人もいますので、今の体制で無理せず参加できる人を大切にしたいと考えています。

— 班長はどのような仕事を？

集金、情報紙の配布などの他、年に1回は班会議で住民が話をする場を設けてほしいとお願いしています。住民同士がコミュニケーションを取ることが大切ですから。

— 今後、力を入れていきたいことは？

定期的を実施しているイベントを、高齢者だけでなく子ども達（子育て世代の父兄を含め）が参加できるようなものにしたい。それから、本部役員に女性を増やしたい。女性目線の意見は必要です。

— 町会のメリットは？

メリットをどう感じるかは個人差があります。私たちの町会では、年1回ほど非会員にも会報を配布し、HP等で情報発信を行っています。災害時に会員と非会員を区別することもできません。会員の利点という意味では、難しい問題です。

今言えるのは、人との繋がり、協力し合う関係性を日頃から作っておくことは大切だということ。どんなきっかけでも構いません。

無理をしない範囲で少しずつ地域のコミュニティに参加してほしい。私のきっかけが子どもの少年野球だったように。



子ども達も参加したふれあい祭りの様子

地域防災の重要性を痛感。会員の絆を作りたい
つつじが丘自主防災本部副部長 平野司さん

— 自主防災を別体制にしたのはなぜですか？

これまで自治会会長が防災会の会長を兼任していました。しかし、高齢化もあり、会長職の負担をできるだけ軽くしなければならない。一方で地域防災の重要性は増えています。そこで、防災会を別体制にし、負担を分けて専念できるようにしました。

— 地域防災の重要性は増している？

実は、東日本大震災の年に自治会長として、災害時の対応をした経験があります。加えて、近年は毎年のように地震や水害など様々な非常事態が起きている状況です。日頃から防災意識を高め、地域で備えておくことの重要性を痛感しています。

— 会長を務めていた頃と比べ、自治会に変化は？

高齢化が進み、班長を務められないという理由で退会する人が増えました。また、コロナ禍もあり、草取りや清掃などで住民が集う機会が少なくなっています。

— 自治会として何か対策は？

新入居者に自治会の案内をしますが、特に勧誘はしていません。ただ、退会者には、自治会のメリットを説明しています。

— 自治会のメリットとは？

防災や非常時の共助です。自主防災本部では、防災台帳（3年に1回更新）から要支援者を把握し、非常時に備えてサポートする体制を整えています。

— 今後の取り組みは？

防災訓練や避難訓練の重要な目的の一つは、会員の絆を強めることです。訓練だけでなく、参加者が楽しめる企画も採り入れる工夫をし、好評をいただいています。

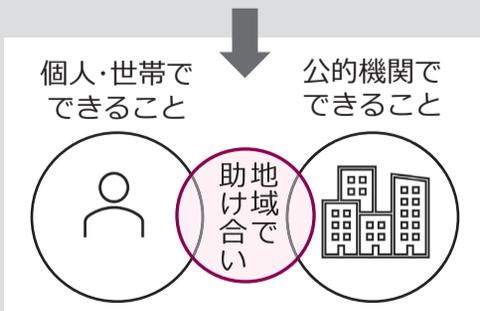
課題は、40代、50代に参加してもらうこと。同好会やボランティアを通じて住民の出会いの場を作り、次世代につなぐ道を開きたいと考えています。



令和4年度役員のみなさん

個人でできないこと、公助の及ばないこと

自治会は共助の役割を担っています。



近隣住民の協力・助け合いを組織的に安定して実現するのが自治会です。

地域とつながっている安心感

とはいえ、個人でも不自由なく便利に生活できる世の中。特に共働き世帯や若い世代は、日常で地域のつながりを必要と感ずることは少ないのかもしれませんが。

ですが、地域で助け合える関係性を日頃から作っておくことは、生活の上で大きな安心感になります。心地よい範囲の緩い関係でいいのです。できること、得意なこと、興味のある活動に参加すれば、そこに繋がりが生まれます。自治会としても、これまでの慣習や活動に縛られず、柔軟な運営が必要です。

利害や損得で計れない「地域の力」

ニーズが多様化している時代に、一括りに自治会のメリットを示すのは難しいでしょう。あえて言うなら、「人との繋がり、地域で安心できる関係性を作ること」です。そこから助け合いの意識が生まれ、様々なニーズに応える地域の力が育ちます。

さらに、人手不足の自治会や小さなコミュニティでできないことは、他の地域やコミュニティと連携することで可能になります。

目先の利害や損得ではなく長い目で、地域との関係について考えてみませんか。（下園）

「人生100年」今できること

ライフプランを考えよう！

人生を楽しむための自分時間の作り方

井上さんは、時間の使い方の達人で生活を楽しんでいる方です。現役時代から、生きていく中で楽しめるものを持ち、その活動をするために時間を調整するように心がけてきました。仕事でもプライベートでも一流を目指し、仕事に没頭した後は土日の趣味の時間でリフレッシュしてきたそうです。また、人生の折々にライフバランスシートで現状を客観的に自己分析し、軌道修正します。そうすることで「これからやりたい事」が数年後のシートには、しっかりと結果として残されます。井上さんが着々と目標に向かって進むことが出来るのは、このように記録することで日々の思いを行動に移しているからなのでしょう。

たとえば30代の頃、井上さんは子どもリズムたいそうクラブや親子工作クラブなど子供と一緒に活動に力をいれました。40代の頃は県南レクリエーションクラブ、お母さん方のレクリエーション指導などレク中心に活動し、50代になるとお父さん友の会（社協）や各地での講演会・講座を実施してきました。取手市でも井上さんの講座を受けてボランティア活動を始めた方も多いと思います。

人生100年のライフプランを立てるにあたり、年代に関係なく充実したプライベートを送るために、(①自分の好きなことを徹底的にする。②きっかけを見つけて好きなことや趣味を育て、時間とお金をそこに集中する。③友達をたくさん作る。)などのアドバイスをいただきました。もっと知りたいと思われた方は井上さんのホームページをのぞいてみてください。



↑井上さん
ホームページ

医療や衣食住の充実で、「長寿社会、人生100年どう生きるか」が模索されています。仕事も趣味も全力を注いできて、これからも夢や目標を追い求め続ける「時間を活かす達人」の井上忠志さんをご紹介します。

「スクエアダンス」というものをご存じですか？

藤代スクエアダンスクラブの会長をされている井上さんのクラブ例会を見学し、初めて『スクエアダンス』の魅力に触れました。

『スクエアダンス』とはアメリカ発祥のダンスです。1グループ8人で、コーラー（指示者）のコール（英語の掛け声の指示）で音楽のリズムに合わせて踊るマスゲーム的なダンスです。コマンドという100以上の動きのパターンを、コーラーのコールに合わせて瞬時に行動しなければならず、右脳を活性化させます。1回10分程度動いたら休みを入れ、2時間の練習で7千から8千歩は歩きます。激しい運動ではないのですが、心も身体も活性化し年齢に関係なく若さを保ってくれる運動です。

井上さんはスクエアダンスを28年前に知り、24年前に藤代スクエアダンスクラブを設立しました。部員は36名、現在県内には18クラブあります。参加者のひとりに話を伺うと「現役の頃は都内のクラブに所属して



藤代スクエアダンスクラブの例会の様子。
右がコールをする井上さん。

いました。リタイアして自分に合うクラブを探して柏から通っています。4人いるコーラーそれぞれ特色があり楽しんでいます。」とのことでした。(河口)



藤代スクエアダンス
クラブホームページ

4月1日から初心者講習実施予定

人生やりたいことを見える化する！「ライフバランスシート」

日本の平均寿命は、男女とも80歳を超え、長寿国です。誰も、平等に1日24時間を持ち、その時間をどう使うかによって、生き方や生活、楽しみ方も人それぞれ違ってきます。

井上さんは、節目節目で今どの部分にエネルギーを注力しているか、これから何をしたいのかなど丸円の大きさを活動比重をチェック、更なる行動目標を定めたり修正などもしています。

大リーグの大谷翔平選手は、高1の時、マンダラシートで、将来の目標を明確にし、実現させたと話題になりました。人生でやりたいことを「見える化」すれば、新たな行動を起こす端緒になります。

夢や希望を持ち、輝く人生を送るために、独自の「ライフバランスシート」を作ってみてはいかがでしょうか？(糸井)



井上さん作成の
「ライフバランスシート」

連載企画

取手 Oh! 散歩

第3回

身近な市内のおすすめ散策スポットを連載で紹介します。

第3回は市内の桜の名所の一つであり、歴史に思いをはせることもできる「岡堰」です。

約80本のソメイヨシノが咲き誇る「岡堰」。治水が安定せず、たびたび水害を起こしていた小貝川を鬼怒川から切り離し岡堰を設けました。明治9年にその堤防上に桜樹を植樹したのが桜の名所の始まりです。

岡堰中の島に間宮林蔵のブロンズ像が建立されています。16歳の林蔵が小貝川の堰止め工事で認められ、それが探検家・測量家の誕生へと結びつきます。岡堰は林蔵にとり登龍門なのです。車で10分程の所に「間宮林蔵記念館・生家」（つくばみらい市）があります。時間に余裕があ

りましたら訪れることをお勧めします。

間宮林蔵、林蔵の師伊能忠敬、忠敬より42年前に日本地図を作成した県下高萩市出身の長久保赤水。満開の桜の下、日本地図作成に尽力した先人達に思いをはせてみるのも散歩の楽しみです。(落合)



編集後記

「取手市総合防災マップ」が市内全戸に配布された。日本は残念ながら災害大国である。被害が甚大で国が復興への特別助成を行う「激甚災害」の指定は東日本大震災から数えても20件を超えるという。

地球温暖化も喫緊の課題である。去年の広報とりで11月1日号でも「台所から始める地球温暖化対策」の特集を組んでいる。普段から一人一人が災害に備えることが重要である。更に正しい情報を得ることが大切だ。我が家の防災ラジオは今日も赤く点滅している。正しく作動している。(落合)

発行日 令和5年3月1日
編集発行 取手市 市民協働課 / 下園淳子 / 河口優子 / 落合伊佐男 / 糸井弘
〒302-8585 取手市寺田5139
TEL 0297-74-2141 / FAX 0297-73-5995
Email s-shien@city.toride.ibaraki.jp
https://www.city.toride.ibaraki.jp 表紙絵 有本 唯